

2023.5.29.



バルコニーで育てているバラの中で、背が高く伸び、枝もたくさん太く伸び、蕾も多くつけ、咲いた途端、最も人目を惹きつける**深紅**のバラは“イングリット・バークマン”という名前です。たくさん花を咲かせ、香り高く、花持ちが良く、堂々とした風格です。オードリー・ヘプバーンやアンネ・フランクの名を持つバラに比べると、パワフルな美しさで圧倒しています。さすがに、名前に負けていません。バラは5月も末になると、盛りが終わり、枝を切り詰め、次を待ちます。

春の終わりの今日、私は誕生日を迎えましたが、この時期に誕生日を迎えられるもう一つの喜びは「聖霊降臨日（ペンテコステ）」の祝祭と重なることです。昨日は聖霊降臨日の礼拝に出席しました。新約聖書に2000年前のこの日の出来事が象徴的に記されています。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。(使徒言行録 2:1-3)

この箇所を読むたびに旧約聖書の詩篇 104 篇を思い出さずにいられません。

(主は) 雲をご自分のための車とし/ 風の翼に乗って行き巡り/ さまざまな風を伝令とし/ 燃える火を御もとに仕えさせられる。(詩篇 104:3-4)

聖霊降臨の出来事を、初代教会の使徒たちは、伝統的な **風の翼** に従って、**激しい風** を印とし、人知を超えた神の働きであることを示し、また、**燃える火** に従って、**炎のような舌** をシンボルとし、神の燃えるような愛の力、すなわち「聖霊」が一人一人の上にとどまったと告白しているのです。

神の愛、「聖霊」によって与えられたのは、「舌」であったといえます。舌 (tongue) は言語という意味も持ち、言葉を発するための道具です。神によって、使徒たちは「言葉」を発する手段を与えられたということです。「言葉」は、イエス・キリストを象徴しているのです。

はじめに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。…言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。(ヨハネ 21:1-14)

この聖霊降臨日に、使徒ペトロが口火をきって、積極的に「舌」を用いて、「ナザレのイエスこそ、神から遣わされた方です」と宣教を始めました。多くの人々が仲間に加わったと記されています。聖霊降臨日が教会の誕生日として祝われてきています。神の御心である愛を表す色、主イエスの十字架上で流された血、使徒たちが殉教で流した血の色が**赤**です。喜びと苦しみが混ざり合っているのです。**赤**が聖霊降臨日のシンボルカラーとなっています。この頃に誕生日を迎える私も、ペンテコステの出来事を覚え、神の愛を受ける喜びと使命を心に受け止め、小さいながらも、イエス・キリストの宣教に生きる者でありたいと願っています。